

2900店舗への配送強靱化の取り組みが榮譽を受けた。

また、選考委員会特別賞を大塚倉庫が受賞。同社は業績拡大には従業員の働き方改革が不可欠との認識から、全国26拠点を大画面でつなぐテレビ会議システムの導入とともに、残業抑制

や有給休暇活用を推進するため業務内容の職場での共有化をはじめとする多様な取り組みを通じた業務効率化を推進していることが評価された。

表彰式の後には受賞した各社が取り組みの概要を説明するプレゼンテーションを行った。

そのほかロジスティクス分野のテクノロジー活用や、ベンチャー企業との提携によるイノベーションなどをテーマにソリューション企業や投資コンサル企業による講演が行われた。

### 醍醐倉庫

## 「道々橋の蔵出し市」が今年も盛況

### 荷主の滞留在庫を倉庫で販売

醍醐倉庫（本社・東京都大田区、醍醐正明社長）は26日、本社倉庫で「道々橋の蔵出し市」を開催した。荷主の滞留在庫をリーズナブルな価格で販売する恒例のイベントで今回が第18回目。倉庫1階に設置した様々な「店舗」は、お買い得品を見つけにくる地元の人たちで終始にぎわいをみせていた。

食コーナーも設けられ、冬季五輪を目指す「下町ボブスレー」も展示された。

午前10時のスタート前から長蛇の列ができ、今回先頭の人には午前8時15分から並んでいた。地元の人に愛されるイベントを運営する醍醐社長は「毎年2000人くらいの来場があり、今回はそれを超える可能性がある」と話す。

同社は「物流を通して社会に貢献する」を企業理念とし、「お客様」「社員」「地域」の3つへの貢献を目指している。バザールは、荷主の滞留在庫を倉庫で販売することで地域の人たちに還元するイベント。

今回は、食品、雑貨、アパレルなど15社が「出店」。敷地内には焼き鳥や大田区名物グルメ「東京大田汐焼きそば」の飲

荷主はバザールで滞留在庫を販売できるのに加え、来場者が買いたい物を楽しんでいる様子を間近で感じられるのは嬉しい模様。秋の1回だけでなく、年に数回開催してほしいという要望も強いという。

毎回、開始から1時間の間が最も来場者が多いが、午後から社員がついたつきたて餅の無料配布を行ったり、ゆきがや太鼓の演奏会、タイムセール、豪華景品が当たる抽選会を企画するなど、1日に何度も楽しめるよう工夫されている。



地元の人でにぎわう



大田汐焼きそばのコーナーも

このため、醍醐倉庫ではネットショップの代行販売「売る倉庫」を事業化し、「醍醐倉庫蔵出し市」を開設。既存荷主、新規荷主向けに醍醐倉庫による代行販売を行うかたちで、通年、荷主の販売サポートを展開している。